

基本情報

名前

大倉健太郎（おおくらけんたろう）

所属

幼児教育科

職名

准教授

出身大学

1988年3月 玉川大学文学部教育学科 卒業

出身大学院（最終学歴）

1998年1月 ウィスコンシン大学大学院教育政策研究科比較教育学専攻 博士課程修了

取得学位（学位）および学位授与大学、授与年

博士（Ph.D.）（ウィスコンシン大学、2001年5月）

専門分野

教育学

担当科目、セミナー（2011年度）

幼児教育入門、教育原理、教育哲学、教育哲学セミナー、海外フィールドワーク

所属学会、委員会

アメリカ教育学会、American Educational Research Association、日本保育学会、日本教育社会学会、日本比較教育学会、日本カリキュラム学会、日本子ども社会学会

受賞

フルブライト奨学金

研究情報

研究課題（おもなテーマ）

教育と近代、社会包摂と排除、教育改革

研究業績

[著書（共著）]

「教育の場」『新説・教育の原理』共著（6人）三井善止、有賀亮、長谷川洋二、今尾佳生、大倉健太郎 玉川大学出版部 2002年2月 担当 103-128頁（総ページ数 208頁）

「テキストで学ぶ」、『通信教育学習ナビ』共編著（3名）作間慎一、坂野慎二、大倉健太郎 玉川大学出版部 2007年3月 担当 77-89頁（総ページ数 190頁）

「子ども観と教育観の現在」『教育事情』共編著（8名）請川滋大、古賀徹、田中圭治郎、藤本典裕、岡本富郎、大崎素史、岡田耕一、大倉健太郎（財）私立大学通信教育協会 2009年4月 担当 19-27頁（総ページ数 250頁）

[著書（分担執筆）]

「流行語・俗語」、『最新英語キーワードブック』共著（当該章 8 名）伊藤典子、岩本典子、榎本正嗣、島田雅晴、広瀬佳司、山田詩津夫、渡辺信、大倉健太郎 小学館 2003 年 3 月 担当 152-182 頁（総ページ数 207 頁）

「デューイ・哲学の改造」、『人間学の名著を読む』共著（7 名）三井善止、土井健司、長谷川洋二、岡本裕一郎、中山剛史、佐久間裕之、大倉健太郎 玉川大学出版部 2003 年 4 月 担当 163-182 頁（総ページ数 198 頁）

“Dewey and the Ambivalent Modern Japan,” in *Inventing the Modern Self and John Dewey: Modernities and the Traveling of Pragmatism in Education*. 共著（16 名）Thomas S. Popkewitz, Ulf Olsson, Kenneth Petersen, Daniel Trohler, Tom De Coster, Marc Depape, Frank Simon, Angelo Van Gorp, Jorge Ramos do O, Noah W. Sobe, Sabiba Bilgi, Seckin Ozsoy, Rosa N. Buenfil Burgos, Marian Jorge Warde, Javier Sanez-Obregon, Jie Qi, Kentaro Ohkura Palgrave-Macmillan 2005 年 担当 279-299 頁（総ページ数 302 頁）

“The Demystification of the Divine State and the Rewriting of Cultural identity,” in *By the Dawn's Early Light: American Educational Reconstruction in Post-Conflict Settings from the Spanish-American War to Iraq*. 共著（12 名）Noah W. Sobe, Benjamin Justice, Jason M. Yaremko, Charles Dorn, Brian Puaca, Masako Shibata, Thomas Koinzer, Laura B. Perry, Dane Burde, M. Ayaz Naseem, Kenneth J. Saltman, Kentaro Ohkura. Palgrave-Macmillan 2009 年 担当 129-145 頁（総ページ数 258 頁）

“Globalization and Education in Japan” in *Globalization and the Study of Education: the 108th Year Book of the National Society for the Study of Education* 共著（18 名）Thomas S. Popkewitz, Fazal Rizivi, Daniel Trohler, Noah W. Sobe, Nicole D. Ortegon, Rosa Nidia Buenfil-Burgos, Ines Dusel, Roger Dale, Susan Robertson, Phillip Brown, Hugh Lauder, Kalervo N. Gulson, Masako Shibata, Sverker Lindblad, Rita Foss Lindblad, Michael A. Peters, Bob Ligard, Kentaro Ohkura. Wiley-Blackwell 2009 年 担当 160-179 頁（総ページ数 289 頁）

「脱学校論のいま - 学校教育の可能性と制約」、『子どもと学校』共著（13 名）武内清、西島央、富江英俊、大島真夫、松尾知明、白石義郎、河野銀子、小原孝久、野崎与志子、小暮修三、望月重信、岩田弘三、大倉健太郎 学文社 2010 年 3 月 担当 151-163 頁（総ページ数 180 頁）

「カリキュラムと学校を問い直す」、『教育課程編成論』共著（8 名）加藤幸次、今尾佳生、坂野慎二、山口圭介、阿久澤栄、奈須正裕、高浦勝義、大倉健太郎 玉川大学出版部 2010 年 6 月 担当 213-233 頁（総ページ数 233 頁）

平成 22 年度先導的の大学改革推進委託事業（文科省）「短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究」共著（3 名）小林雅之、劉文君、大倉健太郎 目白大学短期大学部 2011 年 3 月 担当 183-198 頁（総ページ数 332 頁）

「テストを受ける」、『大学生生活ナビ 第二版』共著（9 名）菊池重雄、芦沢成光、小島佐恵子、河野哲也、横山千晶、ダグラス・トレルファ、山上浩二郎、坂倉杏介 玉川大学出版部 2011 年 3 月 担当 89-103 頁（総ページ数 242 頁）

[学術論文]

「E.D. ハーシュの『文化常識論』とその周辺」単著 アメリカ教育学会紀要3号 1991年 37-42頁

「The Transformation of Power Relations in Education」単著 玉川大学学術研究所紀要4号 1998年 79-91頁

Imperial Subject to Democratic Citizen?: Transformation of Japanese Identity in the Discourse of Education(学位請求論文)単著 UMI Publishing Bell & Howell (TX5-403-912) 2001年 全250頁

「社会的認識論からみたカリキュラム研究：カリキュラムにおける1990年代以降と1930年代の問題意識の対比」単著 玉川大学教育学部紀要2号 2003年 63-77頁

「『落ちこぼれをなくす』とはなにか：アメリカ合衆国における教育政策の移り変わり」『アメリカの学校教育と児童生徒の資質・能力』単著 国立教育政策研究所 2006年3月 29-38頁

[翻訳]

「ブリガムヤング大学と公立学校とのパートナーシップ」『学校と大学のパートナーシップ-理論と実践-』共訳(11名)中留武昭、牛渡淳、太田晴雄、加治佐哲也、小松茂久、坂本孝徳、竺沙知章、南部初世、二宮皓、八尾坂修、大倉健太郎 玉川大学出版部 1994年2月 担当172-203頁

「グローバル時代における教育目的の見直し」『転換期の教育改革 - グローバル時代のリーダーシップ』共訳(7名)小田真幸、小原一仁、ダグラス・トレルファ、島川聖一郎、鈴木彩子、高橋貞雄、大倉健太郎 玉川大学出版部 2011年7月 担当74-103頁

[その他(事典項目)]

「カーネギー財団」『現代アメリカ教育ハンドブック』共著(アメリカ教育学会編)東信堂 2010年10月 担当27頁 (総ページ数201頁)

[その他(学会発表)]

「北米との比較からみた保育観-環境設定の実践的側面を通して-」単 第47回日本保育学会 1994年5月 於昭和女子大学

「比較教育研究は『日本』をその対象としうるか - 『自己』というシステムへの問い」単 第38回日本比較教育学会 2002年6月 於九州大学

「The transformation of Japanese identity from imperial subjects to democratic citizens」単 The Comparative and International Education Society (CIES), 2002年3月、Orland, Florida

「カリキュラム研究におけるもうひとつの『権力』」単 第14回日本カリキュラム学会 2003

年7月
於上越教育大学

「『ポストモダンとカリキュラム』以降のカリキュラム研究」単 第15回日本カリキュラム学会
2004年7月 於愛知教育大学

課題研究「米国のカリキュラム研究における『権力』をめぐる最近の議論」単 第16回日本カリキュラム学会 2005年7月 於東京学芸大学

「『落ちこぼれをなくす』とは何か：米国教育改革にみる社会包摂/国民統合としての『教育的理想』」単
第42回日本比較教育学会 2006年6月 於広島大学

「子ども社会学の目的 - 対象 - 方法を考える：学際性とは何を意味しているのか」共 第16回日本子ども社会学会 2009年7月 於中国学園大学

[その他（評論）]

「IQ再論争」単著 週刊教育 PRO、No.47、p.30、1994/12/20

「新しい幼稚園教育の模索」単著 週刊教育 PRO、No. 3、p.27、1995/1/24

「幼稚園設置基準をよむ」単著 週刊教育 PRO、No. 8、p.29、1995/2/28

「アメリカ教育省がなくなる日」単著 週刊教育 PRO、No.12、p.35、1995/3/28

「E.ボイヤー氏の提言」 単著 週刊教育 PRO、No.16、p.31、1995/4/25

「『現代化する』保育と教育」単著 週刊教育 PRO、No.21、p.37、1995/6/6

「あそびについて - 米国幼児教育者との対話から - 」単著 週刊教育 PRO、No.26、p.32、1995/7/11

「評価とはなにか - 『保育内容等の自己評価から』」単著 週刊教育 PRO、No.31、p.37、1995/8/15・22

「子どもの興味をつかまえる」単著 週刊教育 PRO、No.33、p.34、1995/9/5

「『私学助成関係予算』所感」単著 週刊教育 PRO、No.37、p.35、1995/10/3

「ニーズとは何か - 保育と教育のはざままで - 」単著 週刊教育 PRO、No.41、p.34、1995/10/31

「オープンエンドとアウトカムベース」単著 週刊教育 PRO、No.46、p.29、1995/12/5

「コンピュータ・リテラシー・想像力」単著 週刊教育 PRO、No. 3、p.30、1996/1/23

「『アテナイ』はコンピュータの中に」単著 週刊教育 PRO、No. 8、p.34、1996/2/27

「国際化を知る」単著 週刊教育 PR0、No.12、p.27、1996/3/26

「変わる制度、求められる意識改革 - 地方分権推進法から一年後 - 」単著 週刊教育 PR0、No.16、p.30、1996/4/23

「友達ができないのは何故か - 日本型保育のもたらす認知構造 - 」単著 週刊教育 PR0、No.21、p.30、1996/6/4

「全人的な『生きる力』とは - 中教審のまとめから - 」単著 週刊教育 PR0、No.25、p.26、1996/7/2

「グローバル化と大学教育」単著 週刊教育 PR0、No.18、pp.4-5、2004/5/18

「自由のパラドクス」単著 週刊教育 PR0、No.22、pp.4-5、2004/6/15

「シティズンシップという教育課題」単著 週刊教育 PR0、No.26、pp.4-5、2004/7/13

「税源移譲から学ぶこと」単著 週刊教育 PR0、No.30、pp.4-5、2004/8/10

「最近の学生気質」単著 週刊教育 PR0、No.34、pp.4-5、2004/9/14

「アルバイト意識から見えるもの」単著 週刊教育 PR0、No.38、pp.4-5、2004/10/12

「サンクチュアリーとマーケット」単著 週刊教育 PR0、No.42、pp.4-5、2004/11/9

「義務教育変革の年」単著 週刊教育 PR0、No.46、pp.4-5、2004/12/7

「学力再考」単著 週刊教育 PR0、No.4、pp.4-5、2005/2/1

「スプートニック・ショック・シンドローム」単著 週刊教育 PR0、No.8、pp.4-5、2005/3/1

「落ちこぼれは作られる」単著 週刊教育 PR0、No.12、pp.4-5、2005/3/29

「歴史意識の理解と構築」単著 週刊教育 PR0、No.16、pp.4-5、2005/4/26

「『知』を問うとはなにか」単著 週刊教育 PR0、No.20、pp.4-5、2005/5/31

「国の『補助』のあり方」単著 週刊教育 PR0、No.23、pp.4-5、2005/6/22

「総合的学習の行方が示すもの」単著 週刊教育 PR0、No.24、pp.4-5、2005/6/28

「大学一年次教育」単著 週刊教育 PR0、No.28、pp.4-5、2005/7/26

「選抜から育成へ」単著 週刊教育 PR0、No.32、pp.4-5、2005/8/30

「NCLB 法は『民営化』の行方か」単著 週刊教育 PR0、No.36、pp.4-5、2005/9/27

- 「義務教育費をめぐって」単著 週刊教育 PRO、No.40、pp.4-5、2005/10/25
- 「今日の産学連携事情」単著 週刊教育 PRO、No.44、pp.4-5、2005/11/22
- 「構造改革のアポリア」単著 週刊教育 PRO、No. 2、pp.4-5、2006/1/10・17
- 「教育スローガンを考える」単著 週刊教育 PRO、No. 6、pp.4-5、2006/2/14
- 「国策としての教育」単著 週刊教育 PRO、No.10、pp.4-5、2006/3/14
- 「教育省の危機」単著 週刊教育 PRO、No.14、pp.4-5、2006/4/11
- 「子どもをめぐる環境の変化」単著 週刊教育 PRO、No.18、pp.4-5、2006/5/9・16
- 「保育園民営化の行方」単著 週刊教育 PRO、No.22、pp.4-5、2006/6/13
- 「どんな子どもの育てたいか：ある研究会の日記から」単著 週刊教育 PRO、No.26、pp.4-5、2006/7/11
- 「学力とは誰のものか」単著 週刊教育 PRO、No.30、pp.4-5、2006/8/8
- 「法をどのように教えるか」単著 週刊教育 PRO、No.34、pp.4-5、2006/9/12
- 「教育基本法改正と教育改革」単著 週刊教育 PRO、No.38、pp.4-5、2006/10/10
- 「『必修漏れ』は市場主義の限界か」単著 週刊教育 PRO、No.42、pp.4-5、2006/11/7
- 「いじめと問題意識」単著 週刊教育 PRO、No.46、pp.4-5、2006/12/5
- 「『基礎』学力の呪縛」単著 週刊教育 PRO、No. 4、pp.4-5、2007/1/30
- 「社会の求心力」単著 週刊教育 PRO、No. 8、pp.4-5、2007/2/27
- 「実習訪問の一日」単著 週刊教育 PRO、No.12、pp.4-5、2007/3/27
- 「管理職は裁量権をどう感じているか」単著 週刊教育 PRO、No.16、pp.4-5、2007/4/24
- 「学校化する家庭」単著 週刊教育 PRO、No.20、pp.4-5、2007/5/29
- 「ポスト・テイラー主義」単著 週刊教育 PRO、No.24、pp.4-5、2007/6/26
- 「学校選択制の現在」単著 週刊教育 PRO、No.28、pp.4-5、2007/7/24
- 「教員免許更新制に思う」単著 週刊教育 PRO、No.32、pp.4-5、2007/8/28
- 「教育改革を行なうのは誰か」単著 週刊教育 PRO、No.36、pp.4-5、2007/9/25

「教育をイノベーションに活かすとは」単著 週刊教育 PRO、 No.23、 pp.4-5、 2007/10/23

「迷走する学力観」単著 週刊教育 PRO、 No.44、 pp.4-5、 2007/11/20

「教員免許更新制事情」単著 週刊教育 PRO、 No. 2、 pp.4-5、 2008/1/15・22

「金融危機と教育の行方」単著 週刊教育 PRO、 No. 6、 pp.4-5、 2008/2/19

「『国際競争』下の日本の大学」単著 週刊教育 PRO、 No.10、 pp.4-5、 2008/3/18

「もうひとつの道徳」単著 週刊教育 PRO、 No.14、 pp.4-5、 2008/4/15

「公教育はどこに行くのか」単著 週刊教育 PRO、 No.18、 pp.6-7、 2008/5/13・20

「不登校を考える」単著 週刊教育 PRO、 No.22、 pp.4-5、 2008/6/17

「鞭を惜しむこと」単著 週刊教育 PRO、 No.26、 pp.4-5、 2008/7/15

「『学び』が意味するもの」単著 週刊教育 PRO、 No.30、 pp.4-5、 2008/8/12

「米国留学事情から見えること」単著 週刊教育 PRO、 No.34、 pp.4-5、 2008/9/16

「子ども観の現在」単著 週刊教育 PRO、 No.38、 pp.4-5、 2008/10/14

「子どもは凶悪化したか」単著 週刊教育 PRO、 No.42、 pp.4-5、 2008/11/11

「問われる学士力と大学の役割」、 『週刊教育 PRO』、 No.46、 pp.4-5、 2008/12/9

「市場中心主義からの教育変革」、 『週刊教育 PRO』、 No. 4、 pp.4-5、 2009/2/3

「教育課程とカリキュラム」、『週刊教育 PRO』、 No.8、 pp.4-5、 2009/3/3

「学士課程の見直しが意味するもの」、『週刊教育 PRO』、 No.12、 pp.4-5、 2009/3/31

「幼児教育を支えるもの」、『週刊教育 PRO』、 No.16、 pp.4-5、 2009/4/28

「規制強化から判断力の育成へ」、『週刊教育 PRO』、 No.20、 pp.4-5、 2009/6/2

「施設の子どもたちにできること」、『週刊教育 PRO』、 No.24、 pp.4-5、 2009/6/30

「学校再構築派と脱学校派」、『週刊教育 PRO』、 No.28、 pp.4-5、 2009/7/28

「『無償化』の目的とは」、『週刊教育 PRO』、 No.31、 pp.4-5、 2009/9/ 1

「学びの契機としての関係性」、『週刊教育 PRO』、 No.36、 pp.4-5、 2009/10/6

「育児のパラドクス」、『週刊教育 PRO』、 No.40、 pp.4-5、 2009/11/3

- 「子どもの立場に立つことの難しさ」、『週刊教育 PRO』、No.44、pp.4-5、2009/12/1
- 「『保育士試験』改正に思う」、『週刊教育 PRO』、No.3、pp.4-5、2010/1/26
- 「IR（アイ・アール）」、『週刊教育 PRO』、No.7、pp.4-5、2010/2/23
- 「『地域』共生の時代」、『週刊教育 PRO』、No.11、pp.4-5、2010/3/23
- 「政治イデオロギーのその後」、『週刊教育 PRO』、No.15、pp.4-5、2010/4/20
- 「『政治』教育の可能性」、『週刊教育 PRO』、No.19、pp.4-5、2010/5/25
- 「国の『補助』のあり方」、『週刊教育 PRO』、No.23、pp.4-5、2010/6/22
- 「忘れられつつある『国際化』」、『週刊教育 PRO』、No.27、pp.4-5、2010/7/20
- 「オバマ政権の教育改革」、『週刊教育 PRO』、No.31、pp.6-7、2010/8/17・24
- 「みんなちがって、みんないい」、『週刊教育 PRO』、No.35、pp.4-5、2010/9/21
- 「経済競争力指標から振り返る」、『週刊教育 PRO』、No.39、pp.4-5、2010/10/26
- 「『パリ20区』と移民社会」、『週刊教育 PRO』、No.43、pp.4-5、2010/11/23・30 合併号
- 「大学教育の新時代」、『週刊教育 PRO』、No.2、pp.4-5、2011/1/18
- 「オバマの『未来を勝ち取る』」、『週刊教育 PRO』、No.6、pp.4-5、2011/2/15
- 「子ども支援の2つの体制」、『週刊教育 PRO』、No.10、pp.4-5、2011/3/15
- 「震災からの教訓」、『週刊教育 PRO』、No.14、pp.4-5、2011/4/19
- 「道徳的判断について」、『週刊教育 PRO』、No.18、pp.4-5、2011/5/24

科研費、外部研究費等獲得実績

2006年度調査研究等特別推進経費、『諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力』、国立教育政策研究所 調査研究者

2006年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）『全学生参加型の一年次教育の実践-「一年次セミナー」の組織的展開-』、玉川大学 研究調査分担者

文部科学省平成21～22年度先導的大学改革推進委託事業『短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究』、目白大学短期大学部 研究調査分担者

その他の研究活動

共同研究、在外研究、国内研究、

日本教材制作研究会（富士ゼロックス） 準備委員

社会的活動

東京フルブライト・アソシエーション 役員

以上